

3 1 章	54 節	ヤコブの脱走	ラバンの追跡・ヤコブとラバンの契約
3 2 章	33 節	エソウとの再会の準備	ベニエルでの格闘
3 3 章	20 節	エソウとの再会	
3 4 章	31 節	シケムでの出来事	
3 5 章	28 節	再びベテルへ	ラケルの死・ヤコブの息子たち・イサクの死
3 6 章	42 節	エソウの子孫	セイルの子孫・エドム王国
3 7 章	36 節	ヨセフの夢	ヨセフエジプトに売られる
3 8 章	30 節	ユダとタマル	
3 9 章	23 節	ヨセフとポティファルの妻	
4 0 章	23 節	夢を解くヨセフ	

# 創世記

第三十一章より第四十章



ヨセフとその兄弟

# 第三十一章 早ヤコブの脱走

ヤコブはラバンの息子たちがかつヤコブは我々の父のものをも全部奪取つてしまつた父のものをもばあかしてあの富を築き上げたのだ」と言つて、  
のをも耳にした。ラバンの態度を見ると確かに  
以前と変わつていた。まはヤコブに言われた  
あなたはあなたの故郷である先祖の土地  
に帰らなさい。わたしはあなたと共にいる

ヤングは入をやってニケルとアアも家音の群れが  
いふ野原に呼びぶきせて言った最近えづい  
たのだがあなたたちのお父さんはあなたに対して  
以前とは態度が変ったがーあなたのお父さんの神は  
ずうとあなたと一緒にいてくださった。あなたたち  
も知ってるようにわたしは金力を尽してあなた  
たちのお父さんのひとりで働いてきたのにあなたも  
だましてわたしの報酬を十回も変えたかし

神はわたりに害を加えることをお許しにならなから  
お父さんがぶちのものがお前の報酬だ。と言え  
群れはぶちのものを産むし、縞のものがお前の  
報酬だ。と言えは群れはみな縞のものを産んだ  
神はあなたたちのお父さんの家畜を取り上げて  
わたりにお土産にくださったのだ。群れの発情期の  
ころのことだが夢の中でわたりが目を上げて見ら  
ると雄山羊の群れとつがっている雄山羊は縞とぶちと

まだらのよはなをいびた。そのとき夢の中で神の  
御使が「カコブヨ」と言われたのぞいはいと答える。  
こう言われた目をあげて見なさい。雄山羊の群れ  
とがっている雄山羊はみな結とぶちとまだらのよの  
だけだ。ラバンのあなたに對する仕打ちはすべからず。  
に今かいてくるあなたに「はてしの神であるか」あなた  
はそこに記念碑を立て油を注ぎ、わたしに誓願を  
立てただけはなつかしい。今すぐよの地を出てあなたの  
故郷に帰らなさい。

ラケルとレアはヤコブに答えた。父の家にあたりたあの  
副業の割り当ても分がまだあまてしまうか。わたりた  
はもう父にどうして他人と用でではあきらめせんか。父は  
わたりたちも売す。しかもそのお金を使いはたした。それ  
神様が父から取り上げられた財産は確かに全部わたり  
たちと子供たちのものです。だが、どうも今ヤコブ  
神様があなたに告げられたとおりにならぬ。いざいざ  
ヤコブは直ちに子供たちと妻たちをらんだ。

乗せ、バタン・アラムで得たすべての財産である家畜  
を繋ぎ立てて父イサウのいるカサ地方へ向かひて出発した  
そのときバタンは羊の毛を刈りに出かけていたが、ラケルは  
父の家の守り神の像を盗んだ。ヤコブもアラム人ラバン  
を欺いて自分が逃げ去ることを悟らぬまいようにした  
ヤコブはこっそりすべての財産を持って逃げ出し  
川を渡りギリアドの土地へ向った。

# ラバンの追跡

ヤコブが逃げたことがラバンに知れたのは三日目で  
あつた。ラバンは一族を率いて七日の道のりを追ひ  
かけて行きギリアドの山地でヤコブに追いついたが、その夜  
夢の中、神はアミムレビンのよびに來て言ふが、  
「ヤコブも一切非難せぬようしてここに留めておきなさい」  
ラバンがヤコブに追いついたとき、ヤコブは丘の上にて天幕を  
張つていた。ヤコブも一族と共にギリアドの山にて天幕



を張つた。ラングはヤコブに言った。「一体何としようか」を  
したのか。わたしを欺きしかも娘たちを戦争の  
捕虜のうちに駆けだして行くとは。なぜこうも逃  
げまゝならしてわたしをだましたのか。ひとこと言うて  
くれさうすれば。わたしは太鼓や醒琴などで喜ば歌子  
送り出してやったものさ。孫や娘たちに別れの  
口づけをかけたわな。いつか思ひ出さぬか。わたしは  
はお前たちをひき、母に「唐」をわかれ、お前たちを  
ひき、お前たちをひき、お前たちをひき、お前たちを

お前たちの父の神が、ヤリトカシキ非難やめいへん  
心に留め置きたまはせよとあなたにおまじけになりました  
父の家が遠くいて村も家もいふよふなあなた  
の守り神を盗んだのか。ヤリトカシキはズンに答えた。あなた  
はあなたに娘たちをあなたから奪い取るではなにか  
思ふて恐れただけです。もうあなたを守り神が誰か  
のときを見つかればその神も生かすはおまかせん

我が国の神はあなたにあらざりしあなたのものかあなにか

調べて取り戻してくだされば「ヤコブはラケルがそれを盗んでいたことを知らなかったのだから、そこでラビンはヤコブの天幕に入り更にレアの天幕やエスの家使の天幕にも入って捜してみたが見つからなかったらラビンはレアの天幕も出てラケルの天幕に入ると、ラケルは既に守る神の像を取ってらくだの鞍の中に入れてその上に座っていたのでラビンは天幕の中をくまなく調べたが見つけられずにはいかなかった。ラケルは父に言った

「お父さん、わたしは今、自分の名前を思い出した。」

「お父さん、わたしは今、自分の名前を思い出してきています。」

「ラバンはなおも、捜した。守の神の像を見つけた。それは

いまなくなった。怒りは、ラバンを青いおまへに返した。

「わたしに何の背反、何の罪がある。わたしの後を

追って来られたのです。あなたはわたしのものを

奪った。残らずに調べられました。あなたがあなたの家の名前が

一つでも見つかりました。それをここに書いて、わたしは

あなたの一族との時に置きました。あなたは二人の間を皆に

裁いておらおうではあつたわんか。ハハハハハハ  
いうものあたーはあなたのもつていぢやあつたの  
雌羊や雄羊が、かまひに居み損ねた。いぢやあつたわんか  
はあなたの群れの雄羊も食へた。いぢやあつたわんか  
野獣にかみ裂かれたものがある。いぢやあつたわんか  
持子が行かぬ。いぢやあつたわんか  
夜であらうと泣きました。ものはみな年僕。いぢやあつたわんか  
あなたは要求。いぢやあつたわんか

「今は酷暑に夜は極寒に揺ましく眠るも  
もてやせんぞ。たはらひし一回りも  
ちたはあなたのおまご過しなごうち  
十四年はあなたの人娘のため六まじあなた  
の家吉田の群れのため働きもたはらもあなた  
はわたしの報酬も十回も変えやうたはらもしわたし  
の父の神 アブラハムの神 イサウの畏れ敬う方がわたし  
の味方じなかつたならあなたはきくと何も持たせ

すにわたーを引出したとてしょう神はわたー  
の夢をよとほみよと目こゆめられ昨夜あなたを諭ん  
れたのこいせ

## ヤコブとラバンの契約

ラバンはヤコブに答えたこの娘たちはわたーの娘だ  
この孫たちもわたーの孫だこの家と田の群れを  
お前の目の前におもひものはみなわたーのものだ

かー娘たちや娘たちが産んだ孫たちのためにもは

手におーさーしなるとは思ふな。さあ、お前からお前と  
わたーは契約を結ぼうではな、か。そしてお前とわたー  
の間に何が証拠となるものを立てよう。ヤジは一つ  
の石を取、それを記念碑として立て、一族の者に  
石を集め集めてく、と云った。彼らは石を取  
つてきて石塚も築き、その石塚の傍りで食事をと  
き、たまたまラバンはそれをもエガルサトウと呼び、ヤジ  
はガルサトと呼んだ。ヤジはまたこの石塚が「



は今日からお前とわたしの間の証拠(キリ)となさうと  
言つた。そこでその名はカエドトと呼ばれるようになった。  
そのはまたミズバ(見張所)とも呼ばれた。我々が互いに  
離れてしまつても、まが、お前とわたしの間を見張そ  
う。だから、もういっしょに、お前がわたしの母の娘たちを  
苦めたり、わたしの娘たち以外にほかの女はあつたら  
ず。なら、たとえほかになつても、いへども、神福自身が  
お前とわたしの間にあつて、あつた。ミズバが  
なつた。だから、あつた。

ラビンは更にヤコブに言った。「ここに石塚がある。またここにあたりが、お前との間に立てた記念碑が、あつた。この石塚は証拠であり、記念碑は証人だ。敵意をもつてわたしが石塚を越えて、あたりの方に侵入したら、すうとかがなうようにしよう。ところが、アブラハムの神と、イサハクの神、彼らの先祖の神が、我々の間を正しく裁いてくださいますように。」

ヤコブも又、イサハクの田を、れ敬う方にかけて、誓つた。

マコトは山の上でいけにえをささげ一族を招いて  
祝詞と食事を共にした。食事の後彼らは  
山で一晩を過した。

第三十二章① 次の朝早くラビンは孫や娘たち  
に口づけして祝福をよえそくをも去って自分の家へ  
帰って行った

## エサウとの再会の準備

ヤコブが旅を続けられているとき突然神の御使  
たちが現れた③ ヤコブは彼らを見たとき「こ

は神の陣は言だ」と言いその場所をマハナイン

(三組の陣は言)と名付けた④ ヤコブはあらがじめせん

地方すなわちエドムの野にゐる兄エサウのもとに  
使の者を遣はすといひしお前たちはわたしの  
主人エサウにさう言ひなさいと命じたあなたから  
僕ヤコブはさう申しさうおもうます。わたしはエバンの  
もとに滞在し今日に至りまゝだが牛ろばき  
男女の奴隷を所有するようにならうとしたそんで  
使の者とご主人様のもとに送り報告を  
御機嫌をお伺いたします。使の者はヤコブの

とこちらに帰つて来てしつ兄上エサウさまのところに行って  
参りませう。ただ兄上様の方でもあなたを迎えるため  
四百人のお供を連れてこちらへおいでになさる途中が  
ございませうと報告した。ヤコブは非常に決心し  
悩んだ末連れていく人を羊牛らくだなどと共に  
二組に分けた。エサウがやつて来て一方の組に攻撃を  
仕掛けても残りの組は助かると思ったのである。ヤコブ  
は祈った。わたしの父アゲラムの神わたしの父イサハクの神

まよあなたたはあたしにこう言われました「あなたは生まれ故郷に帰るなさいあなたはあなたに  
幸いを与えろ」と　あたしはあなたが僕に示して  
くたさした。さぶこの巻をまんじもくを又けらるに足ら  
ない者ですか？あたしは一本の杖を頼りにこの  
ヨシノ川を渡りすした。今は二組の陣営を持つ  
まよにならました。どうか兄エサウの手から救って  
ください。あたしは兄が恐ろしいのです。兄は攻めて来

わたしをばあやめ母も子供も殺すかよーいおやせん  
あなたはおかつてこう言われまーたこわたしは  
必ずあなたに幸いを与えあなたの子孫を海邊  
の砂のように数え切れなほほど多くすまうと

その夜ヤコブは野宿して自分の持物の中から  
兄エサウへの贈り物を選んだ。それは雌山羊二百匹

雄山羊二十匹 雌羊二百匹 雄羊二十匹 乳牛十頭

三十頭とその子供 雌牛四十頭と雄十頭 雌羊は  
二十頭



雄ろば十頭であつた。それを群れごとに分け  
召使いたちの手に渡して言つた「群れと群れとの  
間に距離を置きわたりの先に立ちそ行きなさい」  
また先頭を行く者には次のようになつた「兄の  
エサウがお前に出会うまでお前の主人は誰だといえ  
行くのかい。いから家畜は誰のものだ」と尋ねたら  
いふ言ひはなほいふ言ひはあなただ様の僕ヤコブのもの  
でいふ人のエサウさまに差上げら贈ら物でいふ言ひ

ヤコブは家から参り来りて云ふと云ふ。ヤコブは三番目の  
者にも三番目の者にも群れの後について行くまで  
者に命じりて言つた。エサウに出会つたらこれと  
同じことを述べ。あなたさまの僕ヤコブも後から  
参るの参る。』と言いなさい。』ヤコブは贈り物を先に  
行かせて兄をなだめその後で顔を合せれば恐  
らく快く迎えてくれるだらうと思つたのである。  
こうして贈り物を先に行かせヤコブ自身はその夜  
野営地にとどまつた。

# ブヌエルでの格闘

その夜ヤコブは起きて二人の妻と二人の側女  
それに十一人の子供を連れてヤボウの渡しを  
渡った。皆を導いて川を渡らせ持ち物と渡して  
しちうとヤコブは独り後に残った。そのとき何物  
かが夜明けまでヤコブと格闘した。ところがその人は  
ヤコブに勝てないとみてヤコブの腿の関節を打たれど  
格闘を繰り返すうちに腿の関節がはずれた。

「お前が尋ねておられる方が、夜が明けるとまうからうか」とその人は言ったが、ヤコブは笑みえた。「いいえ、祝福してください。さるまじは、誰もおせん」とお前の名はなんといふのか」とその人が尋ねた。ヤコブですと答へると、「その人は、あなたのお前の名はもうヤコブではなく、これからはイスラエルと

呼ばれる。お前は神と人と闘つて勝つたからだ。」

「どうもあなたのお名前を教へてくださった」とヤコブが答へると、「はい、あなたの名を尋ねるのだから、あなた

ヤコブをその場で祝福した。ヤコブは「わたしは顔と顔とを合せて顔を見たのになお生きてゐる」と言つてその場所をベニエル(神の顔)と名付けた。

ヤコブがベニエルを過ぎたとき太陽は彼のの上に昇つた。ヤコブは腿の関節を痛めて足をこすりまじらして

いた。さうゆつちゆつちでイスラエルの人は今でも腿の

関節の上にある腰の筋をを食ふ。なびかの人がヤコブ

の腿の関節つまり腰の筋のところを打つたからである。

# 第三十三章 エサウとの再会

ヤコブが目き上げるとエサウが四百人の者を引き連れて来て来るのが見えたヤコブは子供達をそれぞれシヤとラケルと二人の側女とに分け②側女とその子供達をその後にラケルとヨセフを最後に置いた③ヤコブはそれから先頭に進み出た兄のもとに着くまでに七度地にひれ伏した④エサウは走って来てヤコブを迎え抱き締め首を抱えて口づけし共に泣いた

やがてエサウは頬を上げ女たちや子供たちを見回して尋ねた「諸にこの人とは誰なのか」「あなた  
の僕であるわたしに神が恵んでくださった子供たち  
です」ヤコブが答えるとの側女たちが子供たちと  
共に進み出てひれ伏し次にレアが子供たちと共に  
進み出てひれ伏し最後にヨセフとラケルが進み出て  
ひれ伏した。エサウは尋ねた「今わたしが会った  
おのれは誰か」ヤコブが「御主人様の好意を  
蒙るは

得たためですと答へると、エサフは上まつた。

弟よ、わたしのところには何ごも十分ある。お祈りのものはお前が持つていなさい。ヤコブは言った、「いいえ、もし御好まをいただければ、どうぞ贈る物をお受け取ってください。兄上の

お顔は、わたしには神の御顔のまうりに見えます。このあたりを温かく迎えてくださるのですから、

どうか持参しました贈る物をお納めください。



神がわたりに恵みをおよぼすにたがうたのでわたし  
は何んでも持っていますから」ヤコブがしきりに勸  
めたのでエサウは受け取った。それからエサウは  
言った、「さうし諸に出かけようわたしが先導する  
から」御主人様ご存じのように子供たちは弱く

わたりは羊や牛の子に乳を飲ませる毒舌をしな  
ければならぬ群れは一日でも無理に追いたて  
るとみな死んでしまいます。どうか御主人様僕に

おのれはよく先にお進みくださる。また、おのれは、  
家書や子供たちにも合せてゆつゝ進みさいに御ま  
人様のもとへ参りまよう。ヤロブが、かう答へたので  
エサウは言ふた。ではあなたを連れて、いふ者を何人  
かお前のところに残して、おのれといふ。いふ。  
それには及びません。御好意だけ十分です。  
答へたので、エサウはその日さいに、道も尋ねて  
行つた。ヤロブはスコットへ行き、自分の家まで連れて、家書

小屋を作ったところでその場所の名はスコト(小屋)と  
呼ばれている。ヤコブはこうしてパダン・アラムから無事  
にカナン地方にあるシケムの所に着き、所のそばに宿  
をよした。ヤコブは天幕をも張った土地の一部を  
シケムの父ハモルの息子たちから百ゲシタで買い取り  
そこで祭壇を建て、それをエム・エロク・イスラエルと  
呼んだ。

# 第三十四章 早シケムでの出来事

あるときシアとヤコブとの間に生まれた娘のテサナが土地の娘たちに念いに出かけたが②その土地の首長であるヒビ人ハモルの息子シケムが彼女を見かけて

捕らえ共に寝て辱めた③シケムはヤコブの娘テサナに心を奪われこの若い娘を愛し言い寄った

更にシケムは父ハモルに言った「どうかこの娘と結婚させてください」④ヤコブは娘のテサナが汚されたことを

聞いたが息子たちはかみ言葉を連れて野へはら  
いたので彼らが帰るまで黙っていた。シケムの父  
ハモルがヤリブと話し合ふた。やうて来たときヤリブ  
の息子たちが野へから帰つて来てこの事を聞いて  
皆互互に嘆きまた激しく憤つた。シケムがヤリブの娘  
と寝てイスラエルに對して恥すまひを行つたがやう  
それは——はな々ぬことであつた。ハモルは彼らと  
話しだした。息子のシケムはあなたの娘さんを思ひ慕

つています。どうか娘さんをも自分の子の嫁にしたいから  
ませんか。そしてわたしのと一緒に住んでほしいと思  
います。あなたがたの土地も十分あります。どうかハンナに  
伝えて自由に使ってください。ハンナもハンナの父を  
兄弟たちと言ったせひともよろしくお願ひします。  
お申出があれば何んでも差し上げます。どんなに  
高い結婚金でも贈る物でもお望みとおの差  
上げをよびてお願ひするおの差上げをよびてお願ひする

しかーシケムが妹テイナを汚したのぞヤングの息子  
たちはシケムとその父ハモルをだましてこいつを答えた  
割れを受け付けていだい男に妹を妻として与えろ

ことは出来ませんそのふうなことは我々の恥とする

とこらです。ただ次の条件がかなえられればあなた

たちに同意しようそれはあなたたちの男性が皆

割れを受け付けて我々と同じようになさるゝことです。そう

すれば我々の娘たちもあなたたちに与えあなたたちの

娘を我々がめとります。そして我々はあなたたち  
と一諸に住んで一つの民とならう。そして、割れ  
を受ければ、同じ同意しないなら、我々は娘を  
連れてこい。とささちまう。ことに、ハモルと  
その息子ジケムはこの条件なら受け入れても  
良いと思つた。とくにジケムはヤコブの娘を愛  
して、いたが、ためらわず、実行。船。と。じ。した。彼は  
ハモル家の中では、最も尊敬されていた。ハモルと



息子シケムは町の北に行き町の人に今に提案した  
あの人たちは我もと仲良くせよとけろ人たちはだ  
彼らもいにはまあせこの土地を自由に使て  
もらうことじょうではなか土地は御覽のことおり  
十分なから彼らが来るも大丈夫だそして彼らの娘  
たちを我々の嫁として迎え我々の娘たちを彼らに  
与えようではなにか。ただ次の条件がかなえられ  
ればあの人たちは我々と一諸に住み一つの民となること

同意するさうだ。それは彼らが割れを受け  
いらさうに我々も男性は皆割れを受けらさうだ。

そうすれば彼らの家畜の群れも財産も動物も

みな我々のものになるではなうか。それにはただ彼ら  
の條件に同意すれば彼らは我々と一諸に住むことが  
できさうだ。母の心からさうに思ふであつた。人は皆

ハモルと思ふ。ミンケムの提案を受け入れた。母の心からさうに  
思ふ。さうだ。男性はさうしてさうして割れを受けた。

三日四日たどつて男たちがたがもた傷の窟みに集つて来た  
よか、ヤギのシルノ息子がまうテグナの見のニメオントロは  
めいめの金とて難く男たちをもハンクスに殺した  
ハムと息子がニケムの家がうテグナを連れ出した。ヤギ  
の息子たちは倒れてゐる者たちに襲ながら更に町  
中を略奪した自分たちの妹を汚したからである  
そして羊や牛やろばなど甲の甲のめら野に  
あつたのも奪い取り 家の中にあつたものも奪

女も子供もすべて捕虜にして「国たのこをさして  
くれたものだわたくしはこの土地に住むカナン人や  
ぶツ人の僧もし者にならうのけ者にならうとしました  
こちらにはツ人数なのだから彼らが集まると攻撃

してきましたらわたくしも家族も滅ぼされてしま  
うではなぬとヤコブがシメオンととどに言うこと  
三人は  
こう言い返した「わたくしたちの妹が娼婦のよう  
に扱われてもかまわぬのですが」

第三十五章 再びベテルへ

神はヤコブに言われ、たごきあへべテルにより  
そこに住みなさい。そしてその地にあなたが兄  
エサウを避け逃げて行ったとき、あなたに現れ  
た神の祭壇を造りなさい。② ヤコブは家族の  
者や一諸にいるすべての人々に言った、「お前  
たちが身に着けている外国の神々を取去り

身を清めて、衣服を着替へなさい。② たごきあへべテルから

ベテラに上ろうわたりはその地に昔難の時わたり  
に各え旅の間わたりと共にいってくださつた神  
のために祭壇を造る。人は持つていた外回の  
すべこの神と着けていた身飾ごとヤリブに  
降したのでヤリブはそれからオシケムに近いにある  
檜の木の下に埋めた。こうして一因は出発したか  
神が周囲の町々を現われやわしたのでヤリブの国にわ  
たちを追跡する者はなかつた。ヤリブはやがて

一族の者すべしと共にかたし地方のルズすなわち  
ベテルに着き、そこに祭壇を築いてその場所をエ  
ベテルと名付けた兄を避け逃げて、またとき神が  
そとでヤコブに現われたからである。リベカの乳母  
デボラが死にベテルの下手にあり、櫛の木の下に葬られた  
そとでその名はアロムバウト(嘆きの櫛の木)と呼ばれるように  
なつた。ヤコブがバズン・アラムから帰る時来たとき、神は再び  
ヤコブに現れて祝福された。神は彼に言われた。

「あなたの名はヤミブでござる。しかしあなたの名はもはや  
ヤミブと呼ばれぬ。イスラエルがあなたの名となさる。」

神はこうして彼をイスラエルと名付けられた。神はまた

彼に言われた。わたりは全能の神である。産めよ

増えよ。あなたがら一つの国民、いさ多くの国民の群衆が

起ころ。あなたの腰から王たちが出る。わたりはヤミブ

公とイサウに与えた土地をあなたに与えら。またあなた

に続く子孫にこの土地を与えら。神はヤミブと語られた。



場所を離れて昇つて行かれた。ヤコブは神が自分  
と語られた場所に記念の石を立てた。それは石の柱で  
彼はその上にぶどう酒を注ぎかけ、また油を注いだ。  
そしてヤコブは神が自分と語られた場所をベエルと名付けた。  
ラケルの死

一同がベテルを出發し、エララタまで行くにはまだかなり  
の道のうが、あるとき、ラケルが産気づいたが難産で  
あった。ラケルが産みの苦しみをして、あるとき助産婦は

彼女に心配はありません。今度、男の spirit へ to go して、  
ラケルが最後の息を引き取りました。と、  
ベン・オニツの妻の事と名付けたが父は、  
妻の事と呼んだ。ラケルは死んでエラララ、  
ベツレムへ向かう道の傍らに葬られた。ヤブは彼女の  
葬られた所に記念碑を立てた。それはラケルの葬り  
の碑として今でも残っています。イスラエルは更に旅を  
続け、シダケル・エデルを過ぎた所に天幕を張った。



# イサラの死

ヤコブはギルヤドアルバサダしむちへブロンクのヤムに  
又イサラのところへ行つた。そゝはイサラだけでなく  
アブラハムも滞在してゐた所である。イサラの生涯は  
百八十歳であつた。イサラは息を引き取り、高齡  
のうち、満ち足りて死に先祖の列に加えられた。  
息子のエサウとヤコブが彼を葬つた。

# 第三十六章 エサウの子孫

エサウすなわちエドムの系図は次のとおりである  
エサウはカナンの娘たちの中から妻を迎えたヘト  
人エロンの娘アダヒビ人ツブオンの孫娘でアサの娘  
オホリバマ③それにネバヨトの姉妹でイシマエルの娘ハセ  
マトである④ アダはエサウとの間にエリマズを産み  
ハセマトはレウエルを産んだ。これらはカナン地方で生まれ  
れたエサウの息子たちである⑤ エサウは妻息子

娘家で働くすべての人々家畜の群すべての動物  
を連れカサンの土地で手に入れた全財産を携え  
弟ヤコブとこゝろから離れてほの土地へ出て行った  
彼らの所有分は一緒に住むにはあまりにも多く  
滞在していた土地は彼らの家畜を養うには狭すぎ  
たからである。エサウはこゝろしてセイルの山地に住むよう  
に頼んだ。エサウとはエドムのことである。セイルの山地に  
住むエドム人の先祖エサウの系図は次のとおりである。

まずエサウの息子たちの名前を挙げておくとエリファズは  
エサウの妻アザの子どもとしてウエルはエサウの妻バセマトの子どもである  
エリファズの息子たちはテマンオマルツアエオガダムケエズである  
エサウの息子エリファズの側女ラムナはエリファズとの間に  
マシクを産んだ以上がエサウの妻バセマトの子孫である  
レウエルの息子たちはハトセラニヤマミザである以上が  
エサウの妻バセマトの子孫である。ツボオンの孫娘で  
アサの娘であるエサウの妻オホツバの息子たちは次のとおり

である彼女はエサウとの間にエウジニヤラムコラを産んだ  
エサウの子孫である首長は次のとおりである彼女は  
まがざエサウの長男エウラズの息子たちについていえば

首長テマン 首長オマル 首長ツネ牙 首長ケチズ 首長コラ  
首長ガタム 首長アハレウであるこれらはエドム地方に住む

エラズ系の首長でアダの子孫である次にエサウの  
レウエルの息子たちについていえば首長ナト 首長セラ

首長ヤンマ 首長ガザであるこれらはエドム地方に住むレウエル



の首長でエサウの妻バセマトの子孫である。エサウの妻  
オホムバマの息子だちについて言えば首長エウシエ首長  
ヤラム首長ミラエある。これはアチの娘であるエサウの妻  
オホムバマから生まれた首長である。以上がエサウすなわち  
エドムの子孫である。首長たちである。

## セイルの子孫

この土地に住むフリ人セイルの息子たちはロレンギバル  
ツグブオンアチテオシオンエウエルテラシヤンである。これはエドム

地には、お母さんの息子が、お父さんの首長たちである。ロマン  
の息子が、お母さんの息子が、お父さんの妹が、お母さんである。  
ロマンの息子は、お母さんの息子は、お父さんの妹が、お母さんである。  
お母さんの息子は、お父さんの妹が、お母さんである。  
お父さんの妹が、お母さんである。  
お母さんである。

ノビ人の首長はバロバツである。首長コロク、首長ニル  
首長ツブオン、首長アサ、首長テラ、首長エツル、首長  
ダク、首長以上がノビ人の首長である。セイン地方に住むそれぞれの  
首長である。

## エドムの五国

イスラエルの人々を治める王がまだいなかった時代にエドム地を  
も治めていた王たちは次のとおりである。エドムを治めて  
いたのはバケスの息子バベリアである。その息子はバババと

いった。ペラが死んで代わりに王となったのはボツラ出身  
でペラの息子ヨバブである。ヨバブが死んで代わりに王と  
なったのはニヤン人の土地から出たリンヤムである。リンヤムが  
死んで代わりに王となったのはペラの子孫のヨバブの子孫であ  
る。ヨバブの母でニヤン人の子孫を殺した人である。その名は  
アビトであった。アビトが死んで代わりに王となったのは  
アスレカ出身のサムラである。サムラが死んで代わりに王とな  
ったのはダトである。その名はハウといふ。その妻の名はメ  
ブルといふ。彼女はマートドの娘でメザバブの孫娘である。

エサウ系の首長たちの名前を氏族と場所の名に従って  
挙げてれば首長ディムナ首長アルワ首長エテト

首長オホウバマ首長エテ首長ジン  
首長ケナス  
首長テマン首長ミブツル  
首長マクグディエル首長

ケラムイも以上がエドムの首長であつて彼らが所有  
した領地に従つて挙げたものである エサウは  
エドム人の先祖である

# 第三十七章 ヨセフの夢

ヤコブは父がかつて滞在していたカナン地方に住んでいた  
ヤコブの家族の由來は次のとおりであるヨセフは十七歳  
のとき兄たちと羊の群を飼っていたまだ若く父の  
側女のビルハヤジルバの子供たちと一諸にいたヨセフは  
兄たちのことを父に告げ口<sup>③</sup>イスラエルはヨセフ  
が身寄りの子であったぞとの息子よるかあがり  
彼には裾の長い疋着をつくらせてやった<sup>④</sup>兄たちは

父がどの兄弟よりもヨセフを愛するのを見てヨセフも  
憎み穢かに語り合ひておぼたなかつた。ヨセフは夢をも  
見てそれを見だちに語つたので彼らはますます  
憚るやうになつた。ヨセフは言つた「聞いてくださいはい  
わたしはこんな夢を見ました。畑でわたしが粟も  
結わえているといまはとうもろこしの束が起き上がりおろ  
すくに立つたのです。すると兄さんたちの束が圍りに集つて  
来てわたしの束にひれ伏しました。兄たちはヨセフに

言った。「あなたとお前が我々の王にならうというの、見たちは夢を  
その言葉集のためにヨセフをおすまわすぞ、憎んだ。ヨセフは  
別の夢を見てそれを見たちに話した。あたしは  
また夢を見ました。太陽と月と十一の星があたし  
にひれ伏しているのです。今度は見たちだけで  
なく父にも話した。父はヨセフを叱つて言った  
「一体どうゆうちとだ。お前が見たその夢はあたし  
お母さんお兄さんたちもお前の前に行き、地面に  
ひれ伏すというのか。」見たちはヨセフをおたんだが父  
は「お前をいかに守るかに留めた。」



# ヨセフ エジプトに売られた

兄たちが出かけて行きシケムで父の羊の群れを飼って  
いたとき、イスラエルはヨセフに言った「兄さんたちは  
シケムで羊を飼っているはずだ。お前を彼らからどう  
つやうたいのだが。」はい、分かりました」とヨセフが答えると  
更にこう言うた。「では早速出かけて兄さんたちが  
元気にやっているか、羊の群れも無事か見届けて  
様子も知らせてくれなうか。」父はヨセフをエジプトの谷

から送った。ヨセフがシケムに着き、野原を歩くと

「ふむ、その人はいかに忠告した。その人はヨセフに尋ねた  
「何を捜しているのかね」「見たちを捜しているのです  
どうして羊の群を飼っているか教えてください」「ヨセフが  
こう言うよ」「その人は答えた「もうハンをもたして  
「もうたドラムンへ行こう」と言っていたのを聞いたが」「  
ヨセフは兄たちの後を追って行きドラムンで一行を見つ  
けた。兄たちははるか東の方かヨセフの妾を認める  
とまだ近づいて来ないうちにヨセフを殺してしまおうと  
たぐらみ相談した。おい向いから例の夢見のおおなが

やそ来る。『ああ今だあれを殺して穴の一口に投げ  
込もう。彼は野獣に食われたと言えはよふ。あれの  
夢がどうなるか見てやろう』ルベンはこれを知りて  
ヨセフを彼らの手から助け出そうとしてまゐつた。命が  
取るものはよそうい。ルベンは続けざまに血を流しとは  
なりたない荒野のこの穴に投げ入れて手を下してはなら  
ない。ルベンはヨセフを彼らの手から助け出して父の叫ぶ  
帰したかつた。かゝつてある。ヨセフがやつて来ると兄たちは  
ヨセフが着ていた着物裾の長い晴れ着をはぎ取り

彼を捕らえて穴に投げ込んだ。その穴は空で、  
水はなかつた。彼らに腰を下ろして食事を  
始めたがふと見上げるとイシマエルの隊  
がギレアドの方からやって来るのが見えたら  
樹脂、乳香、没薬を積んでエジプトに下りて  
行こうとしていたところであった。ユダは兄弟  
たちに「兄弟たち、言わなければならない。その  
血を覆つても何の得にもならない。それ  
よりあのイシマエル人に売らうではないか。弟  
に手をかけろ。それはよさそうである。それ  
で肉親の弟だから」

兄弟たちはこれを聞き入れた。ところがその間にミデア人の隊商たちが通りかかってヨセフを穴から引き上げ、銀二十枚でイシマエル人に売ったので彼らはヨセフをもエジプトに連れて行ってしまった。ルベンが父のところに帰り戻ってみても意外にも穴の中にヨセフはいなくなつた。ルベンは自分の衣を裂き、兄弟たちのところへ帰って、あの子がいないわたくしはこのあたりはどうしたらいのかと言つた。兄弟たちはヨセフの着物を拾い上げ、雄山羊をも殺してその血に着物

を腰にたはれば、彼らはそれから裾の長い暗い着物を  
父のもとへ送り届け、これを見つて「まあ、だがあなたの  
息子の着物がどうかお調べてください」と言われ  
せた。父はそれを調べて言った。「あの子の着物だ  
野獣に食われたのだ。ああ、ヨセフはかみ裂衣をしてしま  
ったのだ。」ヤコブは自分の衣をも引き裂き、粗布を腰に  
まとい、幾日もその子のために嘆き悲しくんだ。息子  
や娘たちが皆やうて来ると慰めようとしたが、ヤコブは  
慰められろことを拒んだ。「ああ、わたしもあの子の

とこころへ嘆きながら陰府へ下りて行くう父はこころをきいて  
ヨセフのためにほいた

一方メダンの人たちがエジプトへ売つたヨセフは  
ファラオの宮廷の役人で侍従長であつたがラファルの  
ものとなつた

# 第三十八章 ユダとタマル

そのころユダは兄弟たちと別れてアドラム人のヒラ  
という人の近くに天幕を張つた。ユダはそこにカナン  
人のミリアという人の娘を見初めて結婚し彼女の  
ところに入つた。彼女は身ごもり男の子を生んだ。  
ずはその子をエルと名付けた。彼女はまた身ごも  
り男の子を生みその子をオナンと名付けた。彼女は  
は更にまた男の子を生みその子をシムラと名付  
けた。彼女がシムラを生んだときユダはケデブにいた



ユダは長男のエルにタマルという嫁を迎えたが  
ユダの長男エルは主の意に反したので主は彼を  
殺された。ユダはオナンに言つた「兄嫁の所に入り  
兄弟の義務を果し兄のために子孫をのこさなさい  
オナンはその子孫が自分のものとならなさいのを知つて  
いたので兄に子孫をばなせなさいように兄嫁のところに  
入らば子種を地面に流した。彼のしたことは主  
の意に反すことであつたので彼もまた殺  
された。ユダは嫁のタマルに言つた「わたしは

自ラからシムルが成人するまであなただは父上の  
家でもお母のまへ暮らしていなさいそれはシムラ  
もまた見たちのうちに死んではいけなうと思つ  
たからであつたタマルは自分の父の家に戻つて  
暮らした。かなりの年月がたつてシムラの娘で  
あつたユダの妻が死んだユダは喪に服した。後友人  
アドラム人ヒラと一諸にシムラの羊の毛を切る者の  
とらうに上り行つた。ある人がタマルにあなたの  
シムラが羊の毛を切るためにシムラ(やうて来ます)

と知らせたので……タムルはせもめの着物を脱ぎ、ブルカをかぶって身なりを変え、テムムナへ行く途中のエキラムの入り口に座った。シエラが成人したのには自分がその妻にしてもらえなむと分かったからである。ユダは彼女も見て顔をも隠して、いさむで娼婦だと思った。ユダは路傍に近寄って、「さああなたのことどう入らせてくれる」と言った。彼女が自分の嫁だとは気がつかないから、あつてあつたわたしのお入りになすのならば何をしたいか、いますが」と彼女が言うとき、ユダは群衆の中から

子山羊を一匹送り届けよう」と答えたが、  
彼女が言った「でもそれを送り届けなくては  
保証の品をくださいますか」といふので、  
「あなただけのものではない、印章  
と持子というしやうその杖です」とユダはそれを渡して彼女  
の所に入った。彼女はこうしてユダにようて身ごもった。  
彼女はさうも立ちまわらべルを脱いで毎日々よめの着物を  
を着た。ユダは子山羊を友人のアドラム人の手に託  
して送らる届け女から保証の品をとら戻さうとしたが、

その女は見つからなかった。友人が土地の人を「エナイ  
ム」の路傍にいた神殿娼婦はどこにいるでしょうが」と  
尋ねると人々は「ここには神殿娼婦などいたこと  
はありませぬ」と答えた。友人はユダのところに戻つて  
来ると言つた。女は見つかりませんでした。それに土地の  
人々「ここには神殿娼婦などいたことはいりませぬ」  
と言ひのです。ユダは言つた。ではあの品はあの女に  
そのまゝやそ、おさうさもないと。我々が物笑いの種に  
なつたからと。いかに。またーは子山羊を届けたのだが。

女が見るからながつたのだから、三が月ほどたつて  
つあつたの妹タマルは姦淫をしかも姦淫にまよそ身ぶ  
もつたのだとユダに告げぬものがあつたので、ユダはさう  
「あの女を引きずり出して焼き殺してしまえ」ところが  
引かず、出されまうとしたとき、タマルはしやうとに使いを  
やつて言った、「わたしはこの器の持ちまにまよそ身ぶら  
たが、す」彼女は、續けて「かう言つた、どうか、あひも  
のついた印書とこの杖とがどなたのものか、お調へ下さい」  
ユダは調へて言つた、「わたしも、彼女の者が正しい。」

わたしが彼女を息子の子にミミラに与えなかつたからで

ユダは再びタマルを知らぬことにはなかつた。タマルの出産の

時が来たが胎内には双子がいた。出産の時一人の子

が手を出したので助産婦は「これが先に出た」と言い

真赤な糸を取ってその子に結んだ。ところがその

子は手も引込めてしまふ。もう一人の方が出て来た

ので助産婦は「言つたなんともあつた。この子は人を出し

抜いた。してそこでこの子はベリッセル（抜き）と名付けられた

その後から手に真赤な糸を結んだ方の子が出て来たので

その子はセラ（真赤）と名付けられた

# 第三十九章 早ヨセフとボテテラルの妻

ヨセフはエジプトに連れられて来たられたヨセフをエジプトへ連れられて来たアイニマエル人の手から彼を買ひ取ったのはファラオの宮廷の役人で侍従長のエジプト人ボテテラルであった②まがヨセフと共におられたので

彼はうまく事を運んだ彼はエジプト人の主人の家に行った③まが共におられまが彼のすいことを

すべてうまく討らわれるのを見たま人は④ヨセフに



目をかけて身近に仕えさせ家の管理をゆたね  
財産をすべて彼の手に任せた。主人が家の管理を  
すべての財産をヨセフに任せてから主はヨセフのゆえに  
そのエジプト人の家を祝福された。主の祝福は家の  
中にも農地にもすべて財産に及んだ。主人は  
金財産をヨセフの手にゆたねと主人が食べる  
もの以外は全く金を遣わなかった。ヨセフは顔も  
美しく休つきも優れていた。これらのことの後で

主人の妻は黙して目もはなさないと言った。わたしの床に入らなさい。――が、セツは拒んで主人の妻に言った。――存じのようには御主人はわたしを側には置かない。おのこには一切死をお遣いにならぬ。財産もすべてわたしの手にゆだねてくださった。――この家ではわたしの上に立つ者はいません。からわたしの意思のままにならぬものもありません。ただあなたは別です。あなたは御主人の妻ですから。わたしはどくろとして

そのようになど大きな悪心を働いて神に罪を犯すことが  
できませう』。彼女は毎日ヨセフに言い寄ったが

ヨセフは耳を貸さず彼女の傍に寝ることも共にいる

こともなかつた。こうしてヨセフが仕事をしやう

として家に入るとおの者が一人も家の中にいなかったら

彼女はヨセフの着物をつかんで言った。わたしの床に

りなさい。ヨセフは着物を彼女の手に残し逃げて外

へ出た。着物を彼女の手に残したまうヨセフが外へ逃

げたのを見つと、彼女は家の者たちを呼び寄せ、  
言った、「見てごらん、ブライズ人などをあたしたちの所に  
連れて来たから、あたしたちはいたがらうさうさうさう  
彼がわたしの所に来て、あたしと寝ようとしたから、  
大声で叫びました。わたしが大声をあげて叫んだのを  
聞いて、わたしの傍に着物を残したまま外へ逃げ、行き  
ました。彼女は主人が家に来るまで、その着物  
を傍らに置いていた。そして主人に用いごとを語った

「あなたがわたしたちの所に連れて来たあのヘブライ人の奴隷はわたしの所に来ていたはずをしようとしたのです。わたしが大声をあげて叫んだものだから」

着物をわたしの傍に残し、たまふ外へ逃げて行きました。あなたの奴隷がわたしのこんなときをよしたのです。と訴

え、妻の言葉柔を聞いて主人は怒り、ヨセフを捕らえて王の囚人もつなぐ監獄に入れた。ヨセフはこうして

監獄にいた。しかし、ヨセフと共に、おられ、恵みを施し

監守長の目にかなうように導かれたので 監守長  
は監獄にいらぬ囚人を皆ヨセフの手にゆだね獄中の人の  
すゝいとよばるヨセフが奴らに導かれた

監守長はヨセフの手にゆだねたことには一切目を配ら  
なかつたヨセフと共におられヨセフがすゝいと  
よばるに導かれたからである

# 第四十章 夢を解くヨセフ

それらのことの後でエジプト王の給仕役と料理長役が

主君であるエジプト王に過ちを犯した。ファラオは怒に

その二人の宮廷役人給事役の長と料理役の長を

侍従長の家にある牢獄つらき書つたがわいてい

監獄に引き渡した。侍従長は彼らをもヨセフに預け

身辺の世話をさせた牢獄の中で幾日かが過ぎたが

監獄につながれたい女エジプト王の給仕役と料理長は

二人共同じ夜にそれぞれ夢を見たとその夢にはそれ  
ぞれ意味が隠されていた。朝になつてヨセフが二人の  
ところへ行つてみると二人ともふさが込んでいた。ヨセフは  
主人の家の牢獄に自分と一諸に入れられている。マタオの  
宮廷の役人に尋ねた。今日はどうしてそんななご直及ら  
な顔をしてらるのですか。「我々は夢を見たのだがそれ  
を解き明かしてくれないか」と二人は答えた。ヨセフは  
「解き明かすは」  
神かなんかのことではあつたせんかどうかわたしに話



「みそくだけさい」と言ふた。給事役の長はヨセフ  
に自分のまた夢を語り、わたしが夢を見ていると  
一本のぶどうの木が目の前に現われたのです。その  
ぶどうの木には二本のつるがあつた。それがみる  
みるうちに芽を出したが、と思ふとすぐに花が咲き  
ふくらみ、とーたぶどうが熟しました。フラオの杯を

手にしていたわたしはそのぶどうを取つてフラオの  
杯に搾り、その杯をフラオにさしあげました。ヨセフは

言ふたつその解き明ははらうです三本のつるは三日  
です三日たてばアラオがあなたの頭を上げてえの  
職務に復帰させてくださいますあなたは以て

給仕役であるたときのようにアラオに杯をあげる  
役目をするようになります。……についてはあなたがその

ように幸せになられたときにはどうかわたりのこと  
を思い出し出てきてください。わたはくブラム人の国から  
無理やり連れられて来たたのです。また僕は半量に

「それならさあ、あなたは何もしてこないのです。」料理役

の長はヨセフが巧みに解き明かすのを見て喜ぶた。

「わたしも夢を見ていきと縮んだら籠が三個わたりの頭の上にあつた。いちばん上の籠には料理役が、フナオのたぐいに整えたいろんな料理が入つていました。」

鳥がわたりの頭の上の籠からそれを食べているのです。

ヨセフは答へた。「その解き明かすはこうです。三個の籠は三日です。三日たてばフナオがあなた達の頭を

上げて切り離し—あなたと木にかけます。そして鳥があなた  
だの肉についてみます。三日目はフアラオの誕生日で  
あつたのでフアラオは家来たちを皆招いて祝宴を  
催した。そして家来たちの居並ぶところで例の給仕役  
の長の頭と料理長の頭も上げて調べた。フアラオは給仕役  
の長を給仕の職に復帰させたので彼はフアラオに杯を  
さしあげ、役目をすらすらよりになつたが、料理役の長は  
ミセブが解き明かしたとおり木にかけられた。と云ふが給仕役  
の長はミセブのことを思い、せむぎをくれた。そして